

中国地方・鹿児島県

関連サイト

鹿児島県

桜島

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004080021_0000

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990112_0000

屋久島

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013771440_0000

奄美群島

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_kagosp_20130326_2446

沈寿官窯インタビュー

http://www.youtube.com/watch?v=cxnU_G7MNIs (韓国語)

鳥取県

鳥取砂丘

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990023_0000

大山

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990591_0000

島根県

松江市

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430428_0000

宍道湖シジミ漁

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004080023_0000

温泉津温泉

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500238_0000

石見銀山

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990137_0000

津和野

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004290032_0000

隠岐島

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990317_0000

山口県

秋吉台

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990089_0000

萩

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004500239_0000

ふぐ

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990411_0000

錦帯橋

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004430447_0000

広島県

厳島

<http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/de>

tail.cgi?dasID=D0004990073_00000

尾道

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004290036_0000

力キ

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004070010_0000

呉

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?did=D0013772656_00000

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_umi_20130517_2452

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_umi_20130517_2454

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_umi_20130517_2455

岡山県

倉敷

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990436_00000

瀬戸大橋

http://cgi2.nhk.or.jp/archives/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004990306_00000

瀬戸内海

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_face_20121130_2230

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_face_20121130_2231

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_umi_20130517_2449a

http://cgi4.nhk.or.jp/eco-channel/jp/movie/play.cgi?movie=j_umi_20130517_2450

高田の独り言

薩摩焼・萩焼と朝鮮人陶工たち

鹿児島市内から北東に向かって薩摩本線に乗ると、伊集院という町に着きます。そこは薩摩の各地に点在する薩摩焼の窯があります。文禄慶長の役で日本に連れてこられた朝鮮人陶工たちの一部は、薩摩藩により保護を受け、なんと明治時代まで二百数十年間朝鮮語を話し朝鮮名を名乗る朝鮮人のみのコミュニティを維持し続けたそうです。焼き物も素晴らしいですが、この歴史的事実に驚愕します。

この中でも有名なのは司馬遼太郎の「故郷忘じがたく候」という小説でも知られる沈寿官窯で、現在15代目の沈寿官さんも自らのアイデンティティを朝鮮民族に求めているようです。なお戦時中外務大臣を務めた東郷茂徳という人物も、本来は朴さんという姓で、やはり薩摩の朝鮮人の村の出身でした。

萩焼の開祖も李勺光、李敬兄弟といい、やはり文禄慶長の役のときに朝鮮から毛利氏が連れてきた陶工です。前回勉強した佐賀県の唐津焼や有田焼もみなそうですが、文禄慶長の役後の西日本における陶磁器の発達は目を見張るものがあります。

そしてさらに興味深いのは、明治維新を起こした際を中心となった藩には、伊藤博文、木戸孝允らを輩出した長州藩(萩焼)、西郷隆盛、大久保利通らを輩出した薩摩藩(薩摩焼)、大隈重信らを輩出した肥前佐賀藩(唐津・有田焼)など、文禄慶長の役のあとに陶磁器が発達したところが多いという事実です。

「中国」地方

中国銀行、中国新聞、中国放送、高校総体中国大会、中国女子駅伝、中国女子短大・・・島根県生まれの私にはごく身近ですが、日本の人口の93%を占める「非中国」地方の方にとっては中華人民共和国のことかと思われるかもしれませんね。しかし西日本において「関西人」や「九州男児」という概念はあっても、「中国人(?)」というアイデンティティや気質が存在しにくいのは、「中国」=中華人民共和国というイメージが強いからだけでしょうか。

同じ中国地方同士でも、山陰と山陽では気候をはじめとして大きくライフスタイルが異なります。私は山陰の人間で、実家は島根県と鳥取県の県境の町、安来市ですが、冬に岡山から中国山地を越えて帰省しようとしたら、岡山では晴れているのに中国山地に向かうにつれ曇ってきて、中国山地にさしかかると雪になることがよくあります。

山陰は日本海側の気候ですから、特に中国山地の山間部では雪がよく降り、小学時代は長靴に雪が入ったことをよく覚えています。今でも初冬になると、「もうスノーはいた？」というのがあいさつ代わりになります。「スノータイヤに変えたか」、という意味です。山陰から遠い北陸や東北、北海道でも似たような会話があるようですが、隣接する山陽ではこのようなあいさつはしないのではないのでしょうか。

経済的な違いも大きなものです。瀬戸内海は古くから大陸と都を結ぶ交通の大動脈として栄えてきたうえ、高度経済成

長期には山陽新幹線などが開通して発展してきました。大企業でいうならマツダ自動車、カルビー、フマキラーなどは広島県、ユニクロやマルハ食品は山口県、ベネッセやイーオン、クラボウなどは岡山県といった具合に、全国的に知られた会社も多いのですが、山陰にはそのような会社はまずありません。そもそも人口が違います。山陰は山陽の四分の一ほどです。

天候も人口も経済もギャップの大きい両地域ですが、不思議と関西や関東など、よそに行くと親近感があるのも事実です。それは何かというと、「自分たちは関東人ではない。関西人でもない。九州人でもない。田舎者ではあるが東北や北陸とも異なる。」という、「〇〇ではない」ことを共有していることだと思います。

このような緩やかな親近感ができた理由は、もともと古代において、奈良や京都からみて関西一円を「近国」、九州を「遠国」、そのあいだを「中国」とよんでいたことから、中国地方と呼んだのだそうです。「中国人」がステレオタイプな個性としていまいちぱっとしないのは、おそらくこの古代のネーミング方法に起因するのではないのでしょうか。

小さな町と「ディスカバー・ジャパン」

中国地方には伝統的な街並みを残す小さな町が少なくありません。そのなかでも広島県の尾道や鞆の浦、山口県の萩、島根県の津和野、大森（石見銀山）、松江、岡山県の倉敷などは、江戸時代から昭和に至るまでの情緒がまちのそこそこに見られます。

これらの小さな町は、いくつかの特徴があります。大きく分けると、①城下町（萩、津和野、松江）、②港町（尾道、鞆の浦）③天領＝江戸幕府直轄領（倉敷、大森）に分かれます。

同時にこれらの町の多くが文学や映画、ドラマなどの舞台となっています。明治期の松江に滞在し、現地の女性と結婚したラフカディオ・ハーンは、この地が気に入ったため日本籍をとり、日本人の精神世界を英語で紹介しました。

また、尾道出身の林芙美子は、自身のあてもない若い日々を「放浪記」としてまとめ、戦前の文学会に一大センセーションをおこしたりしましたし、「小説の神様」と呼ばれる志賀直哉もこの町に滞在中にして執筆しました。80年代には映画監督の大林信彦が「転校生」、「時をかける少女」など、「尾道三部作」を作ったことでも知られています。

1970年代、旧国鉄（現JR）が新しい旅のかたちを提唱しました。「ディスカバー・ジャパン」、すなわち日本再発見として、各地の古い街並みを若い女性たちが家族や恋人以外の「女同士で」訪れるという旅行スタイルです。高度経済成長期に「忘れつつあった」日本古来の姿を、これらに町に見出したわけですから an an や non no といった若い女性向けの雑誌がこのような観光地を特集したため、彼女らを「アンノン族」と呼んだとのこと。今でいうなら、居酒屋は宴会かおじさんたちが行くものという固定観念から「女子会」がビジネスの対象になったようなものではないでしょうか。

そこで一躍脚光を浴びたのが、山陰の

ひなびた城下町の萩・津和野や、交通の便が良いにもかかわらず昔の姿を残す蔵の町、倉敷だったのです。そしてこれらを「小京都」と呼ぶのが定着したのもこのころです。ちなみに先週勉強した大分県の由布院などもこのころ「発掘」されたものです。だから男性天国の別府に対して女性に人気があるのでしょう。私の場合は80年代半ば、アンノン族に一足遅れて中国地方に点在するこれらの町を訪れるようになりました。今思うと十代の男子でありながら、不思議な少年でした。

2000年代になってから、中国の都市部①の若者が「ディスカバー・チャイナ」のようなことをするようになったとのこと。上海周辺の堀のある古い町や、世界遺産に指定された街並を散策したりするのが人気だそうですが、よく考えると松江や萩、津和野、倉敷などは町中に堀や川がめぐらされていますし、石見銀山周辺の大森や温泉津温泉も世界遺産です。私は「(日本を除いた)東アジア人は経済発展をすると日本人と同じことをするようになる。」という仮説を持っているのですが、ここでも証明されたようです。

日本文化のふるさと、出雲

出雲で生まれ育って18歳まで出雲で育ち、関西、延辺、沖縄を転々としてから26歳で出雲に戻り、34歳で再び東京に居④を構えるまで、私は26年間出雲で過ごしてきました。

家内が初めて出雲の実家に来たとき、父が言いました。「出雲國は日本の始まりだ」。父はこれまで本を読んだことがないのを自慢する、不思議な人物ですが、

それでも都会から人がやってくると反射的に「出雲ナショナリズム」を炸裂させます。さらに結婚式に参列していただいた方々も、家内を捕まえては同じことを言うではありませんか。我々出雲族の、特に男性にとって、都会人に出くわしたら、いかに古代出雲が偉大かということ进行宣传する癖があるようです。しかし、眉唾物も含め、代表的な日本文化は出雲発というものが少なくありません。通訳案内士試験的なものでは以下のものが挙げられます。

① 武士 欧米人にとって日本人男性のイメージとして、刀を持って悪と戦うサムライというのがあると思いますが、この原型はやはりヤマタノオロチを倒したスサノオではないでしょうか。

② 刀 武士の魂といわれる日本刀ですが、これはヤマタノオロチのしっぽから出てきた草薙の剣というものが最初です。しかも出雲ではいまなおたたら製鉄という古代の技法で刀剣を作っています。

③ 日本酒 訪日外客が最も楽しみにする和食に欠かせない日本酒ですが、古事記によると、ヤマタノオロチを退治するために、スサノオが出雲で造った酒がその始まりとなっています。雲南市にはその酒を造ったという壺が印瀬の壺神さんとよばれて知られています。

④ 和歌 日本文学の始まりのひとつが和歌ですが、それはヤマタノオロチが退治され、スサノオが作った歌

「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠めに 八重垣つくる その八重垣を」に始まります。そしてその歌碑は雲南市の須佐神社前にあります。

⑤ 神社 観光客は訪日中に一か所ぐらいは神社に行くと思いますが、最古の神社というと諸説ある中でも出雲には「日本初の宮」と呼ばれる須我神社があります

⑥ 相撲 日本の国技は相撲ですが、この起源も出雲にあります。栄光ある出雲國も、大和に國譲りをするように言われますが、その際反対したのが出雲の勇士、タケミナカタでした。そして大和の勇士と国土をかけた相撲大会を行い、負けた出雲は大和に政権を譲ります。両国国技館の壁画には、この日本初の相撲の様子が描かれています。



↑古代の相撲（両国国技館壁画）

⑦ 天満宮 外国人観光客が訪れる九州の神社の中でも、福岡の太宰府天満宮はよく知られています。そしてそこに祭られている菅原道真ですが、出雲で生まれたという説があり、宍道湖南岸には菅原神社という神社があります。

⑧ 歌舞伎 ユネスコの無形文化遺産にも登録されている、名実ともに日本を代表する芸能、歌舞伎は、ご存じ出雲大社の巫女さんという出雲阿国が始めたものです。出雲大社の近くには、彼女のお墓が立っており、今でも歌舞伎関係者が参詣に来ます。



↑出雲阿国墓（出雲市大社町）

なお、以上の全てに諸説・異説があるのですが、なんといっても神代のお話ですから・・・というように神様のせいにして煙に巻くのがいかにも出雲風です。みなさんもお時間がありましたら、ぜひとも一度行ってみてください。